

## 身体計測値の保存状況に関する調査結果について

菊田 文夫

(東京大学教育学部健康教育学研究室)

高石 昌弘・大森世都子

(国立公衆衛生院)

出井美智子

(文部省体育局学校保健課)

学齢期小児の身長や体重の発育の地域差を論ずるにあたっては、これまで厚生省統計や文部省統計の都道府県別平均値を比較する方法がとられてきた。しかし、個人の発育に視点をあて、最大発育年齢や最大発育速度などをもって地域差を論じようとするならば、個人の縦断発育資料がどうしても必要である。

### 身体計測値の保存状況に関する調査

◎個人の身体計測値の保存状況についてお尋ねいたします。

以下の各問いのあてはまる番号に○をおつけ下さい。

- 貴校では、在学している生徒の小・中学校の定期健康診断票を共に保存していらっしゃいますか。
  - 高1、高2、高3すべての学年につき小・中学校の定期健康診断票を共に保存している。
  - 一部の学年については保存している。  
↳保存しているのは(高1・高2・高3)
  - 保存していない(中学校の定期健康診断票のみ保存しておられる場合はこの項に○印)
- 貴校では、過去(卒業生)の小・中・高等学校において計測された個人の12年分の身体計測値を知ることができる資料(定期健康診断票・指導要録・学籍簿など)を保存されていますか。
  - いいえ
  - はい

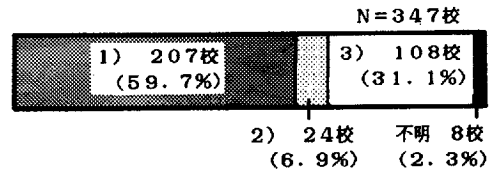
「はい」と答えられた先生のみにお尋ねします。

- ①おおよそ何年ごろから保存されていますか。  
昭和( )年ごろから 約( )年分
  - ②以下にあげる年代の個人の身体計測値の記録(健康診断票・指導要録などに記載)は、保存されていますか。(該当する番号に○)
- 明治時代 明治( )年頃
  - 大正時代 大正( )年頃
  - 昭和(戦前) 昭和( )年頃
  - 昭和(戦後) 昭和( )年頃

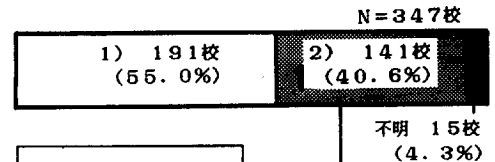
そこで、全国の高等学校で個人の身体計測記録(定期健康診断票)がどの程度保存されているかについての調査を行った。なお、調査対象校は、昭和61年度全国学校総覧から各都道府県の全日制普通科高等学校数に応じて抽出し、計518校に対してハガキによる郵送調査を行った。回答は、昭和62年3月18日現在で347校から得られ、回収率は67.0%である。

これによると、207校が全ての学年について小・中学校の定期健康診断票を共に保存していると答えているが、中学校のみ保存の回答も108校ある。個人の定期健康診断記録は保健指導や健康相談の資料として重要であると思われるので、小・中・高等学校あわせての保存を働きかける必要がある。また、卒業生の12年分の身体計測値保存状況については、141校が保存していると回答しているが、この中には高等学校の指導要録のみ保存の場合も含まれていると思われる、追跡調査が必要であろう。

- 貴校では、在学している生徒の小・中学校の定期健康診断票を共に保存していらっしゃいますか。



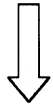
- 貴校では、過去(卒業生)の小・中・高等学校において計測された個人の12年分の身体計測値を知ることができる資料(定期健康診断票・指導要録・学籍簿など)を保存されていますか。



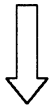
#### 計測値の保存年数

4年以下	6校
5年	57校
6~10年	38校
11年以上	40校

図「身体計測値の保存状況に関する調査」書式および単純集計結果



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



学齡期小児の身長や体重の発育の地域差を論ずるにあたっては、これまで厚生省統計や文部省統計の都道府県別平均値を比較する方法がとられてきた。しかし、個人の発育に視点をあて、最大発育年齢や最大発育速度などをもって地域差を論じようとするならば、個人の縦断発育資料がどうしても必要である。